

2021年度 事業計画書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

目 次

◆	2021 年度事業方針	1
事業計画		
1	総 会	5
2	役員会	5
3	調査及び研究 (定款第 5 条 1 号)	5
4	研究発表会及び学術講演会等の開催 (定款第 5 条 2 号)	7
5	学術誌及び学術図書の刊行 (定款第 5 条 3 号)	8
6	人材の育成 (定款第 5 条 4 号)	10
7	規格の作成及び普及 (定款第 5 条 5 号)	14
8	内外の関連機関、団体等との提携及び交流 (定款第 5 条 6 号)	15
9	研究の奨励及び研究業績の表彰 (定款第 5 条 7 号)	16
10	その他この法人の目的を達成するために必要な事業 (定款第 5 条 8 号)	17
	参考：事業区分の説明	18

2021 年度事業方針

CASE、MaaS に代表されるような自動車を取り巻く技術ニーズの急速な変化や SDGs を端緒とした市民レベルでの環境意識の向上、更には少子高齢化への対応といった長期的な課題に加え、昨年度から全世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症は、市民の移動に対する安全意識や行動の変化を起し、人々の生活はもとより自動車業界や学会運営にも大きなインパクトを与えている。

このように先行きの不透明感が増す中、国会としてはこれまで推進してきた事業の進化・発展を加速させるとともに、社会の変化に合わせ新たな課題にも迅速にチャレンジしていくことが重要である。これらを踏まえ、以下の4つを重点項目と定めて本年度の事業を展開する。

- I with CORONA 環境下においても持続発展可能な新たな事業運営の構築
- II 新しい自動車技術領域の産学官連携の強化
- III 次世代の自動車分野の若手エンジニアの育成
- IV 新たな技術領域のステークホルダーに向けたサービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進

これらの事業展開に当たっては、例年以上にリソースの有効活用を意識した予算編成を行い、年度内においても状況に応じて迅速な対応を随時実行する。

1. 基本方針の4つの重点項目に沿った各事業の展開

基本方針に挙げた I~IV に対する21年度の主な取り組みを以下に示す。

I with CORONA 環境下においても持続可能な新たな事業運営の構築

- ・ 収益事業の柱である人とくるまのテクノロジー展は、横浜・名古屋展示会に加え、新たにオンライン展示会を開催する。これまで参加が困難だった企業や技術者層への門戸を開くと共に、新技術領域、注目技術の発表・展示の更なる充実を図り、発展的拡大を目指し、将来的には第二の柱として収益の盤石化を図る。
- ・ 各種催事の開催形式のオンライン化を促進し、幅広くより多くの方（ステークホルダー）に参加いただける機会を提供する。また、発行物や各種手続き等の電子化でペーパーレス化を促進し、検索機能の強化等のステークホルダーのサービスを向上させるのみならず、環境保護の実現及び資源循環社会への貢献を目指す。

II 新しい自動車技術領域の産学官連携の強化

- ・ 技術会議傘下の「自動運転技術部門委員会」および「モビリティ社会部門委員会」の2委員会を両軸として、共同研究センター傘下の「自動運転 HMI 委員会」との連携により自動運転の将来に関する調査研究の活性化を図る。
- ・ 新技術領域としてビークル&グリッドやコネクティッド技術に関連した「情報通信メデ

ア部門委員会」を設立する。

- ・ 技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充実を図る。

III 次世代の自動車分野の若手エンジニアの育成

- ・ モビリティを起点とした人と都市、ハードとソフトあるいはソフトウェア間などのシステム連携が行われる中、俯瞰的なデザイン思考に根差す要素技術開発が求められていることから、学際的視座醸成の試みとしてシステムデザイン工学などの教育プログラム実施を検討する。
- ・ 通信、自動運転、人工知能の活用に必要な基礎的教育の機会を提供すると共に、工学的分野において新しい知見を取り込み、CASE 技術基礎講座を充実させる。
- ・ 自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする「自動運転 AI チャレンジ」の定着化と裾野の拡大を推進する。
- ・ 学生フォーミュラ日本大会を、コロナ禍においても安全確保を最優先としたものづくりの機会（静的審査：オンライン、車検／動的審査：現地開催）を提供し、大学・高専等の工学教育活性化に貢献できるよう実施する。また、EV 推進を加速するため具体的な施策の検討や、キャリア支援のオンライン交流を積極的に企画実施する。
- ・ キッズエンジニアを、より多くの小学生に自動車への興味や関心を持ってもらうことを目的として、オンライン等を活用した内容を充実させ実施する。また、ジュニア層に向けた継続的な発信について検討する。

IV 新たな新技術領域のステークホルダーに向けたサービス向上と情報発信力強化による会員獲得の推進

- ・ 各会員の専門領域、または技術者としての成長過程に合致するオンデマンド情報を検索及び提供できるプラットフォームとして、「文献・情報検索システム」を4月より稼働する。今年度はコンテンツを拡充し、サービス向上を推進する。
また、ステークホルダーの動向分析を可能とするための顧客管理システム（CRM）を今年度より構築する。将来的には本システムと「文献・情報検索システム」を統合して機能を拡充させ、さらなるサービス向上・新規入会者増加を目指す。
- ・ 本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、出版案内や JSAE ライブラリの文献データベースを「文献・情報検索システム」に統合し、ワンストップで文献調査可能な環境を提供することで、会員サービス拡充・新規入会者増加に繋げる。
- ・ 会誌「自動車技術」を2021年度から電子化し、本システム上で配信することで、タイムリーに会員に新刊を提供でき、時間・場所を問わず閲読できるようにする。また、検索機能の導入や創刊当初から過去の会誌を閲読できるようにするなど、電子化のメリットを活かした提供方法・内容・フォーマットの改善を継続検討する。
- ・ 自動車工学図書についても電子化書籍の発行を検討し、ユーザ利便性の向上を図る。

- ・ 英文ジャーナルの学術的価値向上を目指し、インパクトファクター取得に向けた具体的施策を推進する。

2. 予算編成の基本方針

- ・ 公益法人に求められる財務 3 要件である、① 収支相償、② 公益目的事業比率 50%以上、③ 遊休財産額の保有制限に対する率 100%以内を満たす予算を策定する。
- ・ 本年度収益予測を反映した適正規模の予算を立案する。
- ・ with CORONA 環境下で魅力的な学術団体として持続性と発展性を確実にするため、ステークホルダーの満足度向上を図る支出・投資予算を策定する。
- ・ 「2050 年チャレンジ」及び「中長期事業戦略」を実現するためのロードマップ実行に向けたメリハリのある予算配分を検討する。

1 総 会

第11回定時総会を2021年5月27日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2020年度決算報告の件、名誉会員推薦の件

報告事項 2020年度事業報告の件、2021年度事業計画の件、2021年度予算の件

2 役員会

2.1 理事会を4回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を3回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。新技術領域としてビークル&グリッドやコネクティッド技術に関連した「情報通信メディア部門委員会」を設立する。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と共同研究センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

3.1 技術会議

(1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

(2) 部門委員会

ビークル&グリッドやコネクティッド技術に関連し、新たに設立された「情報通信メディア部門委員会」を含む49部門委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① 2021年春季大会において、オーガナイズドセッションを開催する。
- ② 2021年7月、オンラインにてフォーラムを単独開催する。
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

(3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

(4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により2021年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<主催>

- ① EVTeC2021 実行委員会 (2021年5月24日～26日 パシフィコ横浜 神奈川県)
EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference
- ② FAST-zero2021 実行委員会 (2021年9月27日～10月1日 金沢商工会議所 石川)
FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology toward zero-traffic-accident
- ③ 第32回内燃機関シンポジウム実行委員会 (2021年12月7日～9日 群馬大学 群馬)

(5) 他学協会との連携

- ① 自動車用材料共同調査研究会 (材料部門委員会と日本鉄鋼協会)
- ② 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会との連携
- ③ マルチマテリアル構造設計技術調査委員会 (構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合)

3.2 共同研究センター

(1) 委員会

下記3委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

- ① 自動運転に係わる総合信頼性の継続的確保に向けた標準化検討委員会
- ② 傷害予測による事故自動通報システムの高度化と普遍化に関する検討委員会
- ③ 自動運転 HMI 委員会

(2) 他学協会との連携

2021年度は無

3.3 研究調査事業

技術会議の1委員会が拠出型にて2テーマを実施する。(総額予算800千円)

3.4 受託事業

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会により以下を実施する。

(1) SAE World Congress 等海外におけるPM研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会/受託先: 日本自動車工業会)

PM: Particulate Matter

4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

各種催事の開催形式のオンライン化を促進し、幅広くより多くの方(ステークホルダー)に参加いただける機会を提供する。

- ・ 春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。「人とくるまのテクノロジー展」は5月春季大会時の横浜、並びに6～7月の名古屋に加えて、オンライン開催の3本柱とする。
- ・ 技術者交流の場としての人とくるまのテクノロジー展、シンポジウムならびにフォーラムを更に活性化させ、新技術領域との連携に加え、展示会・技術会議・規格会議間の連携により内容の充

実を図る。

4.1 春季大会

2021年5月26日(水)～28日(金)にオンライン並びにパシフィコ横浜(横浜市)にて開催する。学術講演会、Keynote Address、学生ポスターセッションをオンラインで実施する。

4.2 秋季大会

2021年10月13日(水)～15日(金)にオンラインにて開催する。学術講演会、Technical Review、産学交流セッションのほか、北海道支部の協力を得て市民公開特別講演を実施する。

4.3 自動車技術展

収益事業の柱である人とするまのテクノロジー展は、横浜・名古屋展示会に加え、新たにオンライン展示会を開催する。これまで参加が困難だった企業や技術者層への門戸を開くと共に、新技術領域、注目技術の発表・展示の更なる充実を図り、発展的拡大を目指し、将来的には第二の柱として収益の盤石化を図る。

① 人とするまのテクノロジー展 2021 横浜 (2021年5月26日(水)～28日(金))

パシフィコ横浜(横浜市)

「地球にやさしく豊かな社会を築く自動車技術」をテーマに、新たなエネルギー社会の構築に貢献し活躍する自動車技術と、安心・安全で豊かな生活を支えるモビリティ技術を展望する講演会・技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。

② 人とするまのテクノロジー展 2021 名古屋 (2021年6月30日(水)～7月2日(金))

ポートメッセなごや(名古屋市)

「地球にやさしく豊かな社会を築く自動車技術」をテーマに、持続可能な社会を目指す技術とそれを支える要素技術、更に日本全国に存在する付加価値の高いものづくり技術が果たす地球環境への貢献を考える技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る新車開発講演を実施する。中部支部企画の講演会を実施する。

③ 人とするまのテクノロジー展 2021 オンライン (2021年5月26日(水)～7月30日(金))

「地球にやさしく豊かな社会を築く自動車技術」をテーマに、様々な規制やニーズに対し果敢に挑戦し、地球環境を守りつつ暮らしをより快適なものにしていく自動車技術について紹介する。また、横浜・名古屋展示会で実施される講演会などもオンラインで配信する。

4.4 フォーラム

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会を中心とした企画により 2021年7月6日(火)～9日(金)にオンラインにて21件開催する。

4.5 シンポジウム・講習会

技術会議及び共同研究センター傘下の各委員会企画によりオンラインにて26回開催する。

4.6 国際会議

専門技術分野の国際会議等を以下のとおり開催する。

① EVTeC 2021 (2021年5月24日～26日 パシフィコ横浜 神奈川)

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

② FAST-zero 2021 (2021年9月27日～10月1日 金沢商工会議所 石川)

FAST-zero: International Symposium on Future Active Safety Technology Toward
zero traffic accidents

③ 第32回内燃機関シンポジウム (2021年12月7日～9日 群馬大学 群馬)

5 学術誌及び学術図書の刊行 (定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

2050年ロードマップの各項目の実現に向けた具体策を継続実施する。特に、刊行物の電子化でペーパーレス化を促進し、検索機能の強化等のステークホルダーのサービスを向上させるのみならず、環境保護の実現及び資源循環社会への貢献を目指す。

5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行 (公1)

(1) 会誌「自動車技術」

- ・会誌「自動車技術」を2021年度から電子化し、オンラインにて配信することで、タイムリーに会員に新刊を提供でき、時間・場所を問わず閲読できるようにする。また、検索機能の導入や創刊当初から過去の会誌を閲読できるようにするなど、電子化のメリットを活かした提供方法・内容・フォーマットの改善を継続検討する。

- ・2021年4月号より会誌は電子版刊行物として発行し、紙媒体での発行を終了する。

- ・幅広い読者層を焦点にあてて、「記事の多様化」や「鮮度の高い情報発信」を目的に、2020年4月号より開始した『技術解説記事(特集記事)』と『速報性の高い記事(ホットトピックス記事)』の2本柱の構成を継続して実施する。

- ・*特集記事(1月号・8月号を除く年間10特集)において、技術革新・更新頻度が高い3分野(パワートレイン、車体、自動運転&エレクトロニクス)を年各2回、それ以外の分野を年各1回ローテーションして、特集を組む。特集記事に該当しない分野は『速報性の高い記事(ホットトピックス記事)』として掲載することで、各号において分野の偏りが無いよう配慮する。

- ・*1月号:現状を見据え将来を展望した内容の特集(固定)

- ・8月号:年鑑号(固定)

- ・魅力ある会誌づくりを目的に、2020年4月号より開始した読者アンケートを継続して実施する。

- ・海外への技術情報発信の一環として、8年年鑑号英訳版のウェブサイト公開を継続する。

(2) 「自動車技術—文献抄録集—」

- ・提供内容が文献・情報検索システムに引き継がれるため、2021年3月号をもって、発行を終了する。

- ・「自動車技術—文献抄録集—」廃止に伴い、抄録誌編集委員会の刊行活動も廃止となるが、文献・情報検索システムの内容拡充および普及を推進するため、技報等の技術情報(抄録等)の継続掲載、周辺メーカなどの公式に発行されている技報の掲載検討・調整、国際会議の抄録掲載の検討などの技術情報収集活動を目的として『文献情報収集委員会』を立ち上げ、同メンバーにて活動を継続する。なお、業務処理基準の抄録集関連部分について一部改定を行う。

(3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版刊行物として継続発行する。

- (4) 「日本の自動車規格」の日本語版 (DVD)、および英語版 (WEB) を発行する。
- (5) 第71回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー記事を会誌「自動車技術」に掲載する。
- (6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を電子版刊行物として発行する。
- (7) 「高翔」(関東支部企画・編集)、「宙舞」(中部支部企画・編集)、「関西支部ニュース」(関西支部企画・編集)を電子版刊行物として発行する。
- (8) 新刊、自動車工学シリーズ「二輪車の運動特性」を制作・発行する
- (9) 自動車工学図書についても電子化書籍の発行を検討し、ユーザ利便性の向上を図る。

5.2 研究発表に関する学術誌の発行 (公2)

本会が取り扱う学術文献の活用度を大きく高めるため、出版案内や JSAE ライブラリの文献データベースを新たに構築した文献・情報検索システム上に統合し、ワンストップで文献調査可能な環境を提供することで、会員サービス拡充・新規入会者増加に繋げる。

- (1) 「自動車技術会論文集」
 - ・ J-STAGE にて年6回発行する。
 - ・ オンライン査読システムにより、投稿から掲載までの期間を短縮しつつ高いクオリティの論文を発信していく。
- (2) 「International Journal of Automotive Engineering (IJAE) : 英文ジャーナル」
 - ・ J-STAGE にて年4回発行する。
 - ・ 英文ジャーナルの学術的価値向上を目指し、インパクトファクター取得に向けた具体的施策を推進する。
- (3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集、およびフォーラム資料を電子版刊行物として発行する。

5.3 人材育成に関する学術図書の発行 (公3)

- (1) シンポジウム及び講習会資料を電子版刊行物として発行する。
- (2) 会誌「自動車技術」において教育的記事を連載する。
- (3) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.24」を発行する。

5.4 広報関連他の発行

- (1) JSAE メールマガジン (インターネット配信) を週1回発行する。中部支部メールマガジン (インターネット配信) を月1回発行する。
- (2) 国内への広報活動としてプレスリリースを発行すると共に、ニュースレター JSAE Eye の日英版をそれぞれ年4回電子版刊行物として発行し、国内外への広報に努める。
- (3) 支部だより (北海道支部1回)、行事案内 (関西支部7回) を発行する。

6 人材の育成 (定款第5条4号、公益目的事業3)

次世代エンジニア育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア 2021」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム (学習・コンテスト・進路案内)」、大学生向けに「学生フォ

ーミュラ日本大会 2021」等ものづくり教育の場を提供する。その他、大学生の発表機会として「学生ポスターセッション」を継続する。また、学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。新技術分野の人材発掘、育成のため「第3回自動運転 AI チャレンジ」を11月頃開催予定。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。

6.1 自動車工学基礎講座

オンデマンド型の配信形態による開催を検討する。また、地域や企業団体からの要望に応じた実地開催も継続する。

6.2 CASE 技術基礎講座

5G などに代表される通信、自動運転、人工知能の活用に必要な基礎的教育の機会を提供すると共に、工学的分野において新しい知見を取り込み、CASE 技術基礎講座を充実させる。

6.3 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、9月に開催する。また、実習型の講座を引き続き開催する。

6.4 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：講演会 2 回、見学会 1 回、市民講座 4 回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会 2 回、見学会 2 回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座 9 回、次世代自動車技術フォーラム 2 回、中学生向けマイコンカーラリー 1 回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会 11 回、見学会 11 回、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第 12 回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。また、中高生向けの活動としてエコ 1 チャレンジカップを企画・開催する。
- (4) 中部支部：講演会 3 回、研究発表会 1 回、見学会 14 回、技術講習会 5 回、技術交流会 2 回、体験型講習会 1 回、技術者懇談会 3 回を開催する。
- (5) 関西支部：見学会 6 回、講演会 1 回、技術者懇談会 1 回、技術者交流会 1 回を開催する。
- (6) 九州支部：関西支部との合同例会 1 回、講演会 3 回、見学会 1 回、市民講座 3 回、技術者交流会 1 回を開催する。

6.5 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベルを認定する。

6.6 学生フォーミュラ日本大会 2021ーものづくり・デザインコンペティションー

学生フォーミュラ日本大会は、大会を通じてものづくりの総合力を競い、産学官民で支援して、産業の発展・振興に資する人材を育成する。2021 年大会では、安全な開催を最優先としてオンライン開催と現地開催のハイブリッドにて実施（静的審査：オンライン開催、車検／動的審査：現地開催）。

現地開催（車検／動的審査）は、2021 年 9 月 7 日（火）～11 日（土）の 5 日間にわたってエコパ（小笠山総合運動公園、静岡県掛川市／袋井市）で開催する。オンライン開催（静的審査）は 2021 年 8 月

に現地開催に先駆けて実施する。

また、EV 推進に関する具体的な拡充支援策として、EV 主要部品の確保と供給体制の確立や EV 関連講座の整備、学生のキャリア支援を見据えたスポンサー企業との企画など、参加学生とスポンサー企業にとってニーズのある施策を先行実施検討する。

大会の PR として、YouTube での番組制作と配信を通年で実施する。

6.7 自動運転 AI チャレンジ

自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする「自動運転 AI チャレンジ」の定着化と裾野の拡大を推進する。第 3 回となる自動運転 AI チャレンジを 2021 年 11 月頃に開催する。

6.8 キッズエンジニア 2021

キッズエンジニアを、より多くの小学生に自動車への興味や関心を持ってもらうことを目的として、オンライン等を活用した内容を充実させ実施する。新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、従来の現地開催の代わりにオンライン開催を企画、「キッズエンジニア 2021 オンライン」を 2021 年 8 月 2 日から 31 日まで開催する。

6.9 支部の小学生プログラム

- (1) 北海道支部：「キッズエンジニア」を 3 回、関東支部と共同開催する「くるま未来体験教室」を 1 回開催する。
- (2) 東北支部：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北 2021」を 2 回（支部主催：会場はスリーエム仙台市科学館と福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館とし協力企業と連携）と「自動車の作り方と東北の自動車工場」、「第 6 回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」、「小学生のための自動車教室」を各 1 回開催予定。
- (3) 関東支部：「小学生くるま未来体験教室」を 7 月回開催（うち 1 回は他支部との共同開催）
- (4) 中部支部：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を 11 回開催する。（うち 1 回はキッズエンジニアに出展）。
- (5) 関西支部：「キッズエンジニア」を 2 回開催する。
- (6) 九州支部：キッズエンジニア in 九州を開催

6.10 学生生活動企画委員会

全国 6 支部による学自研活動をはじめとする学生生活動の連携の他、学生生活動全体の推進を行う。大学生の発表機会として「第 2 回学生ポスターセッション」を開催する。その他、学生委員による技術者へのインタビューなどの取材企画をオンライン媒体などを活用して行い、ウェブや SNS (Facebook) を用いて学生向け情報発信を行う。

6.11 JSAE ナイトセミナー

平日終業後の情報収集・継続学習機会を提供するため、JSAE ナイトセミナーを継続開催する。中継やネット配信等の技術を活用し、地域、場所の制約を受けない学びの場の提供を行う。

6.12 学生安全技術デザインコンペティション

2021 年 7 月の横浜での国際大会の開催中止が発表されている。国際大会の延期計画が明確になり次第、具体的な計画を検討し、日本代表チームの派遣を見据え、国内大会を実施する。

6.13 中高生・大学生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム」

中高生を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び「第10回カーデザインコンテスト」を実施する。また、大学生の方々に世界に誇る日本の二輪デザインを知って体験してもらえる機会として、「第8回二輪デザイン公開講座」を実施する。(企画：デザイン部門委員会)

6.14 学生自動車研究会 (以下学自研)

(1) 北海道支部

学自研参与会議3回、車検講習会1回、合同試走会2回、学生フォーミュラ日本大会2021、第2回eSports北海道支部大会1回、若手エンジニアとの交流会1回、学生フォーミュラ日本大会2021報告会、若手メカニックとの交流会1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回開催。

(2) 東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、特別講演会1回、見学会1回、第40回タイヤ研修会、第31回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第32回手作り自動車省燃費競技大会、第36回自動車整備コンテストを各1回開催。技術講習会1回、学生EVフォーミュラ支部試走会4回、模擬機械車検会1回、模擬EV車検会1回開催。第19回全日本学生フォーミュラ日本大会2021へ2チーム参加予定。

(3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・講習会等を5回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第19回全日本学生フォーミュラ日本大会2021に参加。並行してフォーミュラ試走会を支部合同(規模を縮小)で1回、支部単独で6回開催。

(4) 中部支部

参与会2回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回、学術研究講演会1回、ものづくりセミナー1回、支部合同試走会1回、人とくるまのテクノロジー展2021名古屋(プレゼン、フォーミュラカー展示)1回、走行技術トレーニング4回、中部支部交流会1回、基礎技術交流会1回、テクニカルセミナー1回、雪氷路ドライビング講習会1回、カート耐久レース1回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。

(5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、キッズエンジニア、安全運転講習会、新車試乗技術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各1回開催。支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を12回開催し、講習会・勉強会計9回、試走会6回開催。

(6) 九州支部

支部学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、見学会2回、安全運転講習会1回及び懇親会1回開催。第19回学生フォーミュラ日本大会2021へ5校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会5回、勉強会2回を開催。溶接講習会1回を開催。学自研機関紙発行1回。

7 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

規格会議では、今後自動車業界として超スマートモビリティ社会システムの実現に資する戦略的標準化活動に焦点を当てて行く。

7.1 自動車標準化委員会及びJIS/JASO規格審議委員会（自動車分野）

自動車標準化委員会では、「自動車分野の標準化5カ年計画（2021年度～2025年度）」に沿って、自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ領域の重点テーマについて規格開発を推進する。また、日本が国際議長・幹事国を務めるTC22/SC32（電子・電装領域）および国際議長を務めるTC22/SC38（モーターサイクル・モペッド）において、日本の貢献を果たす。

JIS/JASO規格審議委員会では、JIS/JASOの制定及び改正を継続する。またJIS/JASOを活用し、国際標準化に繋げて行く活動も推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC22）

- ①TC22会議およびTC22会議および自動運転の標準化に関するTC22/TC204間連携会議であるAutomated Driving Coordination Group（ADCG）において、日本から積極的な提案を行う。
- ②重点テーマである自動運転安全設計手法、サイバーセキュリティ、ソフトウェア更新、安全性検証シナリオ、性能限界時の機能安全、ドライバモニタリングシステム等の標準化を進める。
- ③日本自動車工業会、日本自動車研究所（ISO/TC22/SC37）等の関係団体との連携強化を図る。
- ④自動運転標準化検討会において、TC22及びTC204の連携を図るほか、ITU-T（国際電気通信連合・電気通信標準化部門）の国内審議団体である（一社）情報通信技術委員会（TTC）と連携していく。
- ⑤日本提案の推進に向けた連携を欧米及びアジア諸国と図る。
- ⑥人財育成の観点で、規格の重要性・標準化プロセスを学ぶISO研修会を開催する。
- ⑦冊子「自動車の標準化2021」を作成・配布し、広報活動に努める。

(2) 国内標準化活動

- ①JASO制定3件・改正5件、テクニカルペーパー制定3件、JIS制定2件・改正1件を計画する。
- ②JIS/JASO原案を作成する委員を対象に規格原案作成講習会を実施する。
- ③「自動車分野の標準化5カ年計画（2022年度～2026年度）」を策定する。

7.2 ITS標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ITS標準化委員会では、自動運転やコネクティビティの機能を取り込んだ次世代交通システムの発展と普及に資する自動車・インフラ・ユーザーの各分野および各分野間のインターフェースに関する規格開発を目指す。具体的には、「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画（2021年）」に沿って、特に日本が議長国であるWG3（ITSデータベース技術）とWG14（走行制御）において、国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動（ISO/TC204）

- ①TC204総会およびTC204組織体制や運営方法見直しを検討するアドホックグループに参加し、日本から積極的な提案を行う。

② TC204/WG14 では効率的な国際会議の運営を推進するとともに、SAE（米国自動車技術会）や ETSI（欧州電気通信規格協会）などと連携しつつ、重点テーマであるモーターウェイショーファーシステム、自動バレー駐車システム、トラック隊列走行システムなどの日本提案の作業項目や、その他重要な作業項目の策定を推進する。

③ TC204/WG3 では、ダイナミックマップに係わる日本提案の作業項目の推進および TC211/JWG11 との協調による地理データファイル(GDF6.0)の PWI/NP 提案準備に注力する(日本デジタル道路地図協会)。

④ 欧米における ITS 分野の産業界の動向に関する情報収集を行い、標準化への影響について分析する。

(2) 国内標準化活動

① ITS 標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会 (WG14) のほか、日本自動車研究所 (WG1)、日本デジタル道路地図協会 (WG3)、UTMS 協会 (WG9、10)、道路新産業開発機構 (WG5、7、18、19)、国土技術研究センター (WG8) 及び電子情報技術産業協会 (WG16、17) が分担して事務局を担当する。

② リエゾン関係にある TTC (情報通信技術委員会) 及び ARIB (電波産業会) との連携を強化すると共に、ITS Japan や日本自動車工業会などの関係業会団体とも連携する。

③ インフラ協調システムの規格化においては、当該国内事業者との連携を構築する (例として自動バレー駐車システムにおいては国内駐車場事業者など)。

④ 冊子「ITS の標準化 2021」「ITS Standardization Activities of ISO/TC204 2021」を作成、配布するとともに標準化活動レポート (会誌掲載) などによる広報活動を進める。

⑤ ITS 分野の国際標準化戦略 5 年計画 (2022 年) を策定する。

⑥ ITS 分野の国際標準化に関する専門家会議を開催する。

8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第 5 条 6 号、公益目的事業 2)

従来活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

8.1 国内関連機関及び団体との連携

(1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。

(2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。

(3) 経済産業省の日本工業標準調査会 (JISC) の自動車他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に活動する。

(4) 経済産業省と連携し、第3回自動運転 AI チャレンジ (2021年11月頃) を開催する。

(5) 経済産業省の第四次産業革命スキル習得講座認定制度における「自動運転分野」に関わる審査に協力する。

(6) 各国国土交通省が2年に一度主催する ESV 国際会議で開催される「学生安全技術デザインコンペティション」の国際大会への日本代表チームの派遣を見据え、国内大会を実施する。

- (7) 国土交通省の新たな図柄入りナンバープレートのあり方に関する検討会において、デザイン部門委員会が1次審査に協力する。
- (8) 国土交通省との共同企画により、技術会議がフォーラム（2021年7月7日）セッションをオンラインにて開催する。
- (9) NEDO「運輸部門省エネルギー技術開発テーマに関する調査」のWGに持続可能な自動車社会検討部門委員会が参画し、活動を引き続き推進する。
- (10) 自動車技術会が幹事となり、第32回内燃機関シンポジウムを日本機械学会と共催する。
- (11) 日本自動車工業会国際標準検討会、および自動運転検討会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (12) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。
- (13) 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (14) 構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合（ISMA）の連携活動を引き続き推進する。

8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 学生フォーミュラを通じて各国との交流促進を図る。
- (2) 中国自動車工程学会年会における企画講演開催など、中国自動車工程学会（SAE-China）との連携を推進する。
- (3) 韓国自動車工学会年会における企画講演開催など、韓国自動車工学会（KSAE）との連携を推進する。
- (4) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (5) FISITA 2021 World Congress（2021年9月13日～17日、プラハ）の開催に協力する。
- (6) 本会会員が申請できる認定制度「FISITA International Engineers Certificate」に参画する。
- (7) APAC-21（2022年10月予定、メルボルン）の開催に向けて協力する。
- (8) APAC Members Meeting などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (9) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies
APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。

- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) ITS 標準化活動功労感謝状：ITS 標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (8) 編集・出版功績感謝状：編集委員会委員としての活動の功績が多大な個人、本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (10) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。
- (3) 学生ポスターセッション優秀賞：春季大会の学生ポスターセッションにおいて優秀なポスター発表を行った学生個人を表彰する。

10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(定款第5条8号)

- 10.1 本会の各ステークホルダーに対する利便性の向上と各事業活動の広報拡大を目指し、既存の各種情報システムを統合し、各会員の専門領域、または技術者としての成長過程に合致する情報をオンデマンドで検索及び提供できる「文献・情報検索システム」を4月より稼働する。
また、ステークホルダー動向分析を可能とするための顧客管理システムを今年度より構築する。将来的には本システムと「文献・情報検索システム」を統合し、ワンストップでのイベント参加登録や、文献調査が行えるなどの機能を拡充し、会員サービス向上、新規入会者増加に繋げる。
- 10.2 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。
- 10.3 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。
- 10.4 「2050年チャレンジ」及び「中長期事業戦略」に掲げた新規事業を実行に移していく。
- 10.5 支部総会・役員会
 - (1) 北海道支部：支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。
 - (2) 東北支部：支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、学自研参与会2回を開催する。
 - (3) 関東支部：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30回を開催する。

- (4) 中部支部 : 支部通常総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会4回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会を開催する。
- (5) 関西支部 : 通常総会1回、理事会2回、合同会議1回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回を開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。
- (6) 九州支部 : 支部定時総会 1 回、理事会 2 回、常任理事会 4 回を開催する。

参考：事業区分の説明

公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業